



楽しく、風を切って自由に歩く――

門川紳郎

盲導犬を使用したい希望を日本盲導犬協会に伝えてから約3年、ようやく盲導犬との共同訓練が始まった=2016年2月、横浜市港北区の同協会神奈川訓練センター

経萎縮のため
徐々に視野、
視力が下がり
始め、気がつ
いた時には、
ほとんど自由
に歩くことが
難しい状態に
なつていた。
しかも、20
10年の大阪
駅大改築工事

また、当時、東京で開かれていた会議等に参加のため、月に2回から3回のペースで上京しなければならず、その度大変苦労したものだつた。大阪駅を利用できないために、遠回りをして地下鉄の新大阪駅へ向かつたり、時にはタクシーの配車を頼んだりしたこともある。遠回りすると時間もかかるし、タクシーを利用した

の後は普段よく利用していた大阪駅がまったく利用できなくなつてしまつた。歩きたいルートを歩けなくなつてしまふと、私の歩行の行動範囲も狭まつてしまい、その結果精神的にもしんどくなつていつた。

い時は聞こえる人に頼んで電話をかけてもらわなければならぬ。大阪駅のことだけではない。視野、視力の低下に伴つてそれまでできていた5ことがだんだん難しくなつてしまふ。たとえば、暇を見つけては家の裏の土手をジョギングしていたことがで

駅改築、行動範囲狭まる

また、当時、東京で開かれていた会議等に参加のため、月に2回から3回のペースで上京しなければならず、その度大変苦労したものだつた。大坂駅を利用できないために、遠回り

きなくなつたり、プール通いもできなくなつたり。

このままでは行動範囲が狭くなつていくばかりではなく、運動不足にも陥つてしまつ。元のように自由に歩いたり、走つたりしたい！ その思いは日増しに強くなつていつた。

きなくなつたり、プール通いもできなくなつたり。

このままでは行動範囲が狭くなつていくばかりではなく、運動不足にも陥つてしまつ。元のように自由に歩いたり、走つたりしたい！ その思いは日増しに強くなつていつた。

私が盲導犬を初めて見たのは、
犬に指示発話、自信なく

盲ろうの門川さんと盲導犬の挑戦

上

お好み書き読者で、2009年にウガンダで開かれた盲ろう世界大会リポートを本紙（09年12月号）に寄せてくれた門川紳一郎さん（51）＝規徳県二重簗喜者福

とか自由に歩く方法はないものか、
真剣に考へるようになつた。

そんな時にまず思い出したのがア

メリカで知り合つたバピンのことだつた。彼は全盲ろうにもかかわらず、盲導犬を使ってどこへでも行く。

彼の勇気ある行動には打たれ、学ぶことが多い。そんなバッキンを日本に

ところが、残念なことに日本では盲ろう者が盲導犬を持つことはまだ消極的で、特に私のようにまつたく聞こえない盲ろう者の盲導犬使用者は全国に例がない。

盲ろう者の移動やコミュニケーションを支援するための行政の制度

ターでの1泊体験歩行から間もなく、私は盲導犬との共同訓練を希望する者の中から選出され、そこ

そのような事情を知りながら、それでもあきらめることができない私は、アシスタンスドッグ支援協会等を通じて、盲ろう者への盲導犬歩行の実現に向けて取り組んでほしいことを要望してきた。

として通訳・介助者派遣制度が全国で実施されている。白杖での単独歩行がむずかしいのであれば、通訳・介助者を利用すればよいではないかと。いう声が聞こえてきそうだ。しかし、通訳・介助者派遣制度があつても、支援者にならへ才が限られてくる。ま

盲導犬の訓練施設は全国に11カ所ある。その内、近畿は3カ所（大阪、兵庫、京都）。また、日盲は横浜の神

いる仲間が盲導犬ユーザーになつた
という話を聞いた。この人は弱視で
難聴で、私とは障害の程度が全く違
うが、彼からのアドバイスもあり、日
本盲導犬協会（日盲）に相談をもちか
けたのだった。2013年の真夏の
ころだつたと記憶している。

として通訳・介助者派遣制度が全国で実施されている。白杖での単独歩行がむずかしいのであれば、通訳・介助者を利用すればよいではないかという声が聞こえてきそうだ。しかし、通訳・介助者派遣制度があつても、支援者となる人材が限られている。また、通訳・介助者の活動時間も、基本は9時から17時となつていて。つまり、盲ろう者が本来利用したい時に利用できないことになる。通訳・介助者が来てくれるのを家でじつと待つていなければならぬなんて、白杖で自由に単独歩行をしていた身に

望する旨の申請書を提出、再三の体験歩行や面接を経て、申請を受理していただくことができた。

盲導犬の訓練施設は全国に11カ所ある。その内、近畿は3カ所（大阪、兵庫、京都）。また、日盲は横浜の神奈川訓練センターのほかに三つの訓練センターを持つていて（仙台、静岡、島根）。地元の大阪など、近畿での訓練ではなく、遠く神奈川の横浜になつたのは、近畿などほとんどの訓練センターで、全く聞こえないユーザーを指導した前例がないため、受け入れに消極的だつたと思う。

日盲には私が盲導犬歩行にチャレンジしてみたいことを強く訴え続け、

として通訳・介助者派遣制度が全国で実施されている。白杖での単独歩行がむずかしいのであれば、通訳・介助者を利用すればよいではないかという声が聞こえてきそうだ。しかし、通訳・介助者派遣制度があつても、支援者となる人材が限られている。また、通訳・介助者の活動時間も、基本は9時から17時となつていて、つまり、盲ろう者が本来利用したい時に利用できないことになる。通訳・介助者が来てくれるのを家でじつと待つていなければならぬなんて、白杖で自由に単独歩行をしていた身にとつては、まるで拘置所に入れられたような気分にさせられる。

望する旨の申請書を提出、再三の体験歩行や面接を経て、申請を受理していただくことができた。

盲導犬の訓練施設は全国に11カ所ある。その内、近畿は3カ所（大阪、兵庫、京都）。また、日盲は横浜の神奈川訓練センターのほかに三つの訓練センターを持つていて（仙台、静岡、島根）。地元の大坂など、近畿での訓練ではなく、遠く神奈川の横浜になつたのは、近畿などほとんどの訓練センターで、全く聞こえないユーヤーを指導した前例がないため、受け入れに消極的だつたと思う。

そんな時に、相談をもちかけた神奈川訓練センターが親身に相談

神奈川訓練センターでの1泊体験歩行にも参加させてもらつた。1泊体

として通訳・介助者派遣制度が全国で実施されている。白杖での単独歩行がむずかしいのであれば、通訳・介助者を利用すればよいではないかという声が聞こえてきそうだ。しかし、通訳・介助者派遣制度があつても、支援者となる人材が限られている。また、通訳・介助者の活動時間も、基本は9時から17時となつていて、つまり、盲ろう者が本来利用したい時に利用できないことになる。通訳・介助者が来てくれるのを家でじつと待つていなければならないなんて、白杖で自由に単独歩行をしていた身にとっては、まるで拘置所に入れられたような気分にさせられる。

そこで考えてみたのが、盲導犬歩行へのチャレンジだつた。犬を傍に行

望する旨の申請書を提出、再三の体験歩行や面接を経て、申請を受理していただくことができた。

盲導犬の訓練施設は全国に11カ所ある。その内、近畿は3カ所（大阪、兵庫、京都）。また、日盲は横浜の神奈川訓練センターのほかに三つの訓練センターを持つていて（仙台、静岡、島根）。地元の大阪など、近畿での訓練ではなく、遠く神奈川の横浜になつたのは、近畿などほとんどの訓練センターで、全く聞こえないユーダーを指導した前例がないために、受け入れに消極的だつたと思う。

そんな時に、相談をもちかけた神奈川訓練センターが親身に相談に乗ってくれ、最終的には訓練の希望を受理してもらうことができ

門川さんが米国で知り合った全盲の導犬ユーチャー・バピンさん（こちら向き右から2人目）と眞導犬（左下）。彼に刺激を受けた、門川さんも眞導犬ユーチャーになる決意をする。15年11月、大阪市内であつた講演会

歩きながら犬を管理していたが、体験歩行では夜間歩行も体験できた。体験歩行では訓練士が後ろをついて

おいていれば、ちょっと近所へ外出したい時、早朝の散歩など、気がねなくできる。日盲の神奈川訓練セン

た。申請受理からおよそ2年、令年2月8日から共同訓練が始まることになった。(つづく)

通訳・介助者、人材不足



全盲ろうの盲導犬ユーザー・バビンさんを米から招いた門川さん、三回